統計

米國ニ於ケル結核患者ノ死亡率ニ就テ

東京市療養所　田澤鐐二

昨年本誌第四號ニ於テ余ハ米國ノ National Tuberculosis Association ノ總會ニテ演說セル所ヲ述ベタリキ。之レ余ガ米國ノ對結核戰ニ就テ觀察セル結論トモ見ルベキモノニシテ余ハ先ヅ之レヲ掲ゲ置キ、漸次ニ其要項ヲ說明セント考ヘタリキ。然ルニ不幸ニシテ震災時ニ其材料全部ヲ燒失セルヲ以テ目下書面ニ依リ之レヲ集メツヽアリ。左ノ一編ハ偶然ニ保存サレタル遺物ニシテ恰度該說明ノ筆頭ニ掲グベキモノトス。

米國ニ於テ近來結核死亡數ノ減少セル原因ノ第一トシテ擧グベキモノハ早期診斷ト、早期ニ於ケル完全ナル治療トノ二者ナリ。故ニ米國ノ全人口ニ對スル結核死亡率ハ過去十數年間ニ半減シテ日本ノ現狀トハ著シク相違スルニ至リタレドモ、結核罹病數ハ米國ニ於テモ其割合ニ小ナラザルベシト思ハル。

米國ノ結核死亡數ハ一ケ年約十萬ナレドモ、結核患者ノ數ハ之レヲ知ルニ由ナシ。當事者ニ糺セシ際『活動性ノ結核百萬、停止セル者百萬ナルベシ』トノ說アリトイヘリ。米國ニテハ結核患者ハ醫師ヨリ屆ケ出ヅルコトヽナリ居レルヲ以テ之ヲ總括スレバ總數ヲ得ラレンカト考ヘタレドモ余ノ旅行中ニハ其實數ヲ知ル能ハザリキ。

紐育市ノ Tuberculosis Association ノ報告ニ依レバ。

(A)同市ノ肺結核患者ノ死亡率ハ左ノ如シ。

一九二〇年　六一六五人　人口十萬ニ就キ　一〇九人
一九二一年　五一四三人　人口十萬ニ就キ　八九人

(B)此死亡數ニ對スル同市ノ結核患者數　(一九二一年)

同年報告セラレタル新患者　一二九六六人　人口十萬ニ對シ　二二五人
同年十二月三十一日現在屆出患者總數　二六八二〇人　人口十萬ニ對シ　四六六人

尙死亡者ト患者數トノ關係ヲ紐育市ノ各區ニ就キテ見レバ左ノ如シ。

	屆出患者總數	死亡者	
	人口十萬ニ對シ	人口十萬ニ對シ	
Manhattan	六四四	一一〇	
Bronx	四四八	七六	
Brooklyn	三三三	七六	
Queens	二八七	六九	
Richmond	二六六	一一五	

以上ノ數字ニ從ヘバ各區ノ病者ハ死亡者ノ二倍餘ヨリ六倍弱ノ間ニ在リ紐育全市トシテハ五倍餘ニ當ルコトヽナル。

然レドモ上記病者ノ數ハ實際數ヨリ少ナカラズヤト考ヘラレ如何程位報告ガ確實ニ行ハルモノカトノ疑念ヲ懷カシメラル。是レ其ノ事業ガ非常ナル難事ニシテ日本ナドニテハ不可能事ナランカトモ考ヘラルヽ位ナルヲ以テナリ。然レドモ各療養所等ヘ入所シテ治療ヲ受ケツヽアルモノハ殆ンド凡テ上記ノ病者數ノ中ニ含マレ居ル可シト信ゼラレ其他ニ於テモ大體ハ包含サレ居ルモノト見テ可ナルベシ。

北米合衆國ノ全療養所ニ就テ患者數ト死亡數トノ比率ヲ觀察スルコトハ興味アル問題ナランモ余ハ斯ル材料ヲ發見スル能ハザリシ故ニ今余ガ所持スル二三療養所ノ報告中ヨリ之ヲ摘記シ治療成績ノ良好ナル狀況ヲ知ル一端トナサントス。

最初ニ擧グルモノハ輕症者收容ヲ標榜セル療養所ナルヲ以テ中等症以上ノ重症患者ノ入院スルコトハ少キモノト見ルベシ。

I　Trudeau Sanatorium (Saranac Lake N. Y.) (公共的療養所)。

一九二二年ノ十月三十一日ニ終ル一年間ニ於テ

退所患者　三二二人　（此中非結核患者　二一人）
死　者　二人（〇・六％）
一九二一年ノ十月三十一日ニ終ル一年間ニ於テ
退所患者　二四七人　（此中非結核患者　二七人）
死　者　〇

II Ray Brook, N. Y.（紐育州立療養所）。
一九二一年十二月三十一日ニ終ル一年間ニ於テ
全患者　四一〇人　（此中非結核患者　一二人）
死　者　三人（〇・七％）

III Stony Wold Sanatorium, Lake Kashaqua N. Y.（寄附ニ依テ設立セラレタル療養所ニテ婦人小兒ノミヲ收容ス）。
一九一七——一九一八　肺結核患者　二六〇人
死　者　三人

IV Sharon Sanatorium, Mass.（婦人小兒ノミヲ收養ス）。
一九二〇年　患者數　五〇人
死亡者　一人卽チ二％

V Tuberculosis Sanatorium of the Metropolitan Life insurance Company（メトロポリタリン生命保險會社結核療養所）。
一九二二年ノ退院患者　三七一人
死亡者　一一人

VI Barlow Sanatorium (Los Angeles)（寄附ニ依テ設立）。
最近五ヶ年間ノ死亡率

患者數	第十五年目（一九一七—一九一八）	第十六年目	第十七年目	第十八年目	第十九年目（一九二二—一九二三）
	一一六	一三五	一五九	一八九	一五二

死亡數　六　八　九　六　五

%　五・一八　五・九三　五・六七　三・一七　三・二九

療養所ニ於ケル患者ノ死亡率ハ前記ノ諸例ニ依テ略考察スルコトヲ得ベキヲ以テ更ニ退所後ノ經過ヲ知ランガ爲メ次ノ二例ヲ擧グベシ。

(I) Arequipa Sanatorium San francisco (寄附ニ依テ設立)。

一九一一年ノ創立ヨリ、一九二一年ニ至ル一〇年間ノ成績。

二ケ月以上在所シタリシモノニテ、退所後一年以上ヲ經過シタルモノニ就キ調査セルニ初期患者ノ七六・三%、全患者ノ五二・六%ニ當ル數ガ生存シテ無事ニ働キツヽアルヲ知レリ。

卽チ、三九七人ノ調査ヲナシ得テソノ中

二〇九人、無事ニ働キツヽアリ。

其他ノ患者ニ就テハ

四九人、生存スレドモ多少徵候ヲ呈ス。

八人、生存スレドモ病弱ナリ。

一三一人(三三%)死亡

(II) National Tuberculosis Association ニ於テ一九二一年ノ春 follow-up study ヲ開始シ全米ノ全療養所凡ソ七百ヘ書面ヲ出シテ退所患者ニ就キ退所後ノ死亡率、生存者ノ身體狀況及經濟狀態等ヲ研究セント企テタルニ、五十六ノ療養所ヨリ回答ヲ得タリ、其中回答ノ完全ナリシモノ四十三ナリキ、其回答ノ中要項ノ具備セルモノ、二千四百五十九人ニ就キ統計ヲ取レル結果ハ左ノ如シ、但シ、一九二〇年ニ各療養所ヲ退所シタルモノトス。

〔前掲 Arequipa sanatorium ノ調査成績モ此中ニ含マレ居ルモノト考ヘラル〕。

六四三人(二六%)退所後死亡

一八一六人(七四%)生存

此生存者中

(イ)約半數ハ退所第一年ノ終ニ於テ仕事ヲナシ居リタリ。而シテ其ノ四分ノ三ハ全仕事時間中働キ、四分ノ一ハ一部分ノミ働ケリ。

(ロ)他ノ約半數ハ働キ居ラザルモノニテ多クハ働キ得ザルニ依リシモ、少數ハ仕事ヲ得ル能ハザルニ因レル者アリ。

(ハ)少數ノ者ニ就テハ生存シ居ルコトハ判明シタレドモ報告確實ナラザリキ。

次ニ生存者ノ健康狀態ヲ觀察スルニ

三八九人、卽チ、二一%ハ報告ヲナサズ。

六四七人、卽チ、四五%ハ結核徵候ヲ呈セズ。

一一%ハ第一年ノ終リ迄ニ再ビ入所シタリ。

二四%ハ年中ノ大部分結核症ニ惱メリ。

一九%ハ折々再發アルモ大部分ノ時日ハ働キ得タリ。

換言スレバ二六%ハ死亡、七四%(?)ハ生存シ且ツ健康狀態佳良、三五%ハ結核病ニ惱ミ一九%ハ折々發病ストイフ成績トナレリ。

一昨一九二二年ノ調査ニ於テハ五十九ノ療養所ヨリ回答來リ六千六百八十人ノ調査ヲナセルコト昨年六月ノ National Tuberculosis Association ノ總會ニ於テ報告セラレタレドモ未ダ其詳報ヲ得ズ。

以上ノ數字ハ吾人ニ對結核戰ノ好成績ヲ示スモノニシテ病者ノ福音トスベキナリ。特ニ輕症者ハ〇・六%又ハ〇・七%ノ死亡率ヲ示スニ過ギザルハ一層人意ヲ强スベシ。之ニ反シテ我國ノ各療養所ニ於テハ遙ニ死亡率ノ高キハ主トシテ早期療養ノ時機ヲ失セルニ因ルモノト見ザル可ラズ。我國ニ於テ早期ニ完全ナル療養ノ行ハレザル所以ヲ考察スレバ歐米先進國ニ學バザル可ラザル幾多ノ事項發見セラル之等ノ點ニ就テハ再ビ卑見ヲ述ブル機會アルベシ。

講義

肺結核ニ對スル安靜療法ノ實施ニ就テ

東京市療養所　遠藤繁清

肺結核ニ對シテハ免疫的療法ノ研究モ日ニ月ニ進歩シ、化學的療法ノ發明亦頗ル多ケレドモ、未ダ諸方面ノ承認ヲ得テ一般的ニ賞用セラルヽニ至レルモノヽ殆ド無キ現狀ニ在ツテハ、何ト云ツテモ衞生榮養療法ナル一般療法ヲ第一位ニ置カヲバナラナイ、就中最高地位ヲ占ムルモノハ安靜療法ノ實行デアツテ、之ハ今日周知ノ事實デ我國デモ以前ノ如キ無理解ナ運動療法ハ漸々見掛ケナクナツタケレドモ、而カモ尙個々ノ實例ニ就テ見レバ其實行セラレ居ル安靜療法ガ頗ル不徹底デアル場合ガ稀デナイ。

云フマデモナク、結核患者ニ於テハ物質消耗ノ度ガ增シテ居ル、心動モ呼吸モ其數ヲ增ス、然シテ總テノ運動ハヤハリ之等ヲ增シ、安靜ハ之等ヲ減少スル事ハ患者デモ健者デモ同樣デアル。肺患者ガ若シ安靜ヲ保テバ、組織ノ消耗ガ減少スルカラ、夫ヲ補フニ要スル食糧モ少クテ足リルコトハ勿論デアル。故ニ若シ安靜時ニモ運動時ト同樣ニ食物ヲ攝取シテ消化吸收シ得ラレルナラバ、其過剩榮養分ハ當然組織內ニ蓄積セラレル道理デアル、此活力ノ貯蓄ハ總テ吾人ノ心身ノ營爲ニ使用セラルヽト同時ニ病竈ノ修理ニモ役立ツ筈デアル。處デ活動性結核アル患者ハ安靜ヲ守ル爲ニ食慾ヲ減ズル如キコトナク、却テ增進スルガ常デアルカラ、安靜ニヨツテ活力ノ攝取ハ增シテ消費ヲ減ズル。故ニ安靜ハ榮養ヲ增進シ病魔ト戰フベキ活力ヲ充實セシムル爲ニ必要缺クベカラザル事ガ明カデアル。之ハ結核ノ發病ガ心身ノ過勞其他ニ因ル活力ノ減退ニ基クノ事實ニ見ルモ知ラレル。

又前述ノ如ク、安靜ニツテ呼吸數ハ最少限度ニ保タレルガ、此事ガ又肺患者ニ取ツテ極メテ重要ナ事デアル、何故ナレバ健康大人モ晝夜ニハ約二萬六千乃至三萬回位ノ呼吸ヲ行フガ、肺患者ハ通常夫ヨリモ多イ。運動スレバ健康者デモヂキ一分間ニ五回ヤ十回卽チ一時間ニ三百回ヤ六百回ハ增加スルガ、肺患者デハ更ニ著シイ。回數ガ增スノミデナク呼吸其物ガ深クナル。此肺運動ハ決シテ活力ノ消耗ナシニ出來ル事デハナイ、極メテ平靜ナ呼吸卽チ何等意識セヌ呼吸デモ一回毎ニ何ガシカノ活力ヲ犧牲ニシテ居ルノデアルガ。幾分デモ促迫シタ呼吸デハ呼吸筋ノ運動モ增ス故、一回ノ消費モ平素ヨリハ多ク、而カモ其回數ガ增スノデアルカラ、活力ノ浪費ハ馬鹿ニナラナイ量ニ達スル。

心臟ノ搏動ニシテモ同樣、一搏亦一搏、常ニ活力ヲ拂ツテ働イテ貰ツテ居ルノデアル、本人ハ睡ツテモ心臟ハ起キテ働イテクレルガ、夫ハ決シテ無料デハナイ、一搏動毎ニ約四「フートポンド」ノ力ヲ費ヤスサウダカラ、一患者ガ安靜ヲ守ラヌ爲ニ「プルス」ガ一分間平均十回增シタトシテモ、一晝夜ニ一萬四千四百回、卽チ五萬七千六百「フートポンド」ノ仕事ヲ餘分ニサセラレル道理デアル。換言スレバ一「ポンド」ノ重サノ物ヲ五萬七千六百「フィート」引揚ゲル丈ケノ力ヲ損スル事ニナルノデアル。夫故治療醫ガ患者ヲシテ安靜ヲ破ラシムルトキハ。之位ノ大損耗ヲ掛ケルコトヲ豫メ承知ノ上デナケレバナラナイ。否之ヲ承知シタル上ハメツタニ安靜ヲ破ラセル氣ニナレナイ。

又呼吸ヲ深ク且ツ繁クナスコトハ病變アル局所ニ對シテ極メテ慘酷デアル、凡テ疲レタル者ハ憩ハセヲバナラヌ、傷キタルニ鞭打テバ名馬モ終ニハ斃レル。病變アル局所ノ治癒ニ其負擔ノ輕減ヲ要スルハ獨リ肺ノミノコトデハナク、殆ンドアラユル疾病ニ於テ共通ノ事實デアル。消化器障碍ニ於テ不消化物ノ暴食ヲ許セバ、如何ナル名醫モ之ヲ治スル事ハ出來ナイ。骨折アル四肢ハ之ヲ副木ヲ以テ固定スルニ非ラザレバ。安ンゾヨク之ヲ癒著セシメ得ヨウ、神經衰弱者ヲシテ更ニ煩悶懊惱セシムレバ、何レノ日ニカ之ヲ治シ得ヨウ、糖尿病者ニ含水炭素ヲ制限セヲバ如何デカ其代謝機能ヲ恢復セシメ得ヨウ、關節結核ニ「ギプス」繃帶ヲ施シ、脊椎「カリエス」ニ「コルセット」ヲ用フルモ同ジク局所ノ固定卽チ安靜ニ外ナラヌ等、今更云フヲ要セヌ程明白デアル。

實際肺患者ニハウェッブモ云ツタ如ク、呼吸ヲ出來ル丈ケ淺クナサシメテ、カノ冬眠狀態ヲ眞僞ル程ニスルコトガヨイ

ノデアル。之ニヨツテ活力ノ消耗ヲ最低限ニ止メ、現ニ修繕工事ニ營々タル局所ヲ振動セシメズニ、只管修理ヲ進捗セシメル事ガ出來ル、而ルニ劇シキ呼吸ヲ反復スル如キ事ガアレバ、恰カモ建築工事中ニ地震、暴風等ノ厄ニ逢フト同一デアル。

又フィッシュベルグ等ノ唱フル所ニヨルト、心動ト呼吸ノ增大ハ病竈ノ毒素ヲ遊離シテ循環系ニ入ル事ヲ多カラシムルヲ以テ、所謂「トキシエミア」ノ症狀ヲ增シ、發熱ヲ促シ、又ハ解熱ヲ妨ゲル、ノミナラズ毒素ノ病竈ニ停滯スルハ病菌ノ繁殖ヲ制限スルモノナルニ、若シ之ヲ散ズレバ病菌ノ發育ニハ好都合トナルト云フ點モ顧慮セヲバナラヌ。

一體一八五八年ニブレーメルガ獨逸ゲルベルスドルフニ療養所ヲ創設シタ當時ハ、戸外運動第一ト云フ考デ、散歩、呼吸體操、乘馬、登山ナドヲ奬勵シ、今日カラ見レバ絶對ニ運動シテナラヌ患者マデモ、自ラ引率シテ野外ヲ散歩セシメタ位デアルガ、當時患者ノ一人デアツタデットワイレルガ、自分ハ皆ト行動ヲ共ニシ兼ル程衰弱シテ居ツタ所カラ、ブレーメルノ主張ノ一部分、卽チ成ルベク長時間戸外ニ暮ラスト云フ點ダケヲ採用シテ、戸外ニ安臥スルコトヲ試ミタ處ガ其成績ガ頗ル良好デ、終ニ全快シタカラ。モウ之ニ限ルト云フ確信ヲ得テ、他年ファルケンシュタインニ療養所ヲ建テ戸外安臥療法ノ旗幟ヲ揭ゲルニ至ツタ、夫カラ次第ニ贊成者ガ增シタガ其後デニソン、ブリッヂ、シューワル、ウェッブ、クノップ、ゴールデン其他大勢ノ醫家カラ、全身的安靜ノミナラズ、局所的安靜ノ目的デ肺運動ヲ制限スルコトガ提唱セラレル樣ニナツタノデアル。

安靜療法ノ適應症

患者ト云フ患者ニ悉ク絶對安靜ヲ强要スルノ要ナキハ無論デ、各個人ニヨツテ安靜ノ程度ヲ加減シ、時機ヲ見テ運動療法ニ移リ、更ニ進ンデハ徐々業務ニ就カシメヲバナラヌノデアルガ、安靜療法ガ徹底的ニ普及シタ歐米デハ徹底シ過ギテ過度ノ安靜ノ弊スラ見ルニ至ツタノデ、其不都合ヲ鳴ラス論者サヘ表ハレテ居ル、卽チ既ニ安靜ヲ要セヌニ至ツタ患者ガ長ク療養所ニ安臥シテ、勤勞ノ勇氣モナク、活社會ニ對スル希望モ消ヘ、或ハ憂鬱ニ閉サレ、或ハ遊惰ニ日ヲ送テ居ルノ愚ヲ攻擊スルノデアルガ、我國ニモ幾分此弊ガ無イデモナイ、一方ニハ安靜療法ガ勵行サレヌ弊モ多イガ、一面ニ

ハアマリ小心翼々トシテ、イツマデモ病牀ヲ離レ得ヌ者モ往々ニアル、之ハ殊ニ喀血性ノ患者ニアリ勝チデアルガ、アマリ長ク無用ノ安靜ヲ繼續スレバ心身共ニ弛緩シテビッグスノ云ツタ通リ「病メル働キ手ガ丈夫ナ惰ケ者ニ變ル」ニ過ギズ、肺病ガ治ツテモ廢物ニナツタノデハ世ノ中ノ役ニ立タナイ點ニ於テハ同一デアル。

デハ先ヅ如何ナル場合ニ絶對安靜ヲ命ズベキカト云フニ、發病早々又ハ急性再發ノ當初デ、最近熱ガ出テ來タリ、咳嗽喀痰ガ增シタリシタモノハ假令微熱デモ絶對安靜ヲ命ズル方ガヨイ、總テ活動性結核デ熱ガアリ、心悸亢進、食慾不振、疲勞等ヲ訴ヘ漸々瘦瘠ヲ增ス如キモノハ是等ガ消失スルマデハ嚴重ニ安靜ヲ保タヂバナラヌ、又假令無熱デアツテモ喀血時ニハ無論絶對安靜ヲ要スル。

又無熱デモ脈ガ九十以上アルトキ或ハ少シ牀上デ動イテ忽チ九十ヲ越ス如キ例ハヤハリ成ルベク安靜ヲ守ラヌト豫後不良デアル。

呼吸促迫モ亦安臥ヲ要スル條件ノ一デアルガ、患者ノ言ノミニヨツテ促迫ノ有無ヲ判斷シテハナラヌ、患者ガ苦シクナイト云ツテモ呼吸數ガ一分間三十回ニモ及ブモノハ安靜ニサセヂバナラヌ。

肋膜炎、腹膜炎、脚氣、腎臟炎ナドノ合併症ヲ起シタルトキモ無論絶對安靜ヲ要スル。

若シ全然無熱トナリ、坐シタリ立チ上ツタリシテ見テモ脈ガアマリ增サズ、呼吸モ左程增サヌ樣ナ場合ハ、徐々ニ安靜ノ度ヲ減少シツヽ運動ノ時機ニ移行シ、一旦弛緩シタ諸筋肉ノ復活ヲ圖ル、其際「ラッセル」ガ少シ聽ヘルトカ、喀痰ガアルトカ、夫ニ結核菌ガ居ルトカ云フ事ハアマリ重キヲ置カズトモヨイ、要スルニ病勢ヲ逆轉セシムル模樣ガナク經過ガ良好ナルヲ見定メツヽ進メバヨイ。

又既ニ永ク安臥ヲ續ケ、極端ニ肥滿スル患者ニ於テハ、今尙幾分ノ活動性病變ガ存シテ微熱ガアツテモ、夫ガ進行性デナイト想像サレル以上ハ、アマリ永ク安臥ヲ繼續スル事ヲ避ケヂバナラヌ。

況ヤ既ニ病機鎭定シテ今ハ唯胸部ノ陷沒トカ打診上濁音ガアルトカ呼氣延長トカ云フニ過ギズ、患者自身モ何等病的自覺ナキ無熱者ニ安靜ヲ命ズル必要ハ毫頭ナク、斯クノ如キ人ニハ夫々適當ノ勤勞ヲ勸メヂバ國家經濟上ニモ甚ダ不都合

デアル。然ルニ唯他覺的變化ガアルト云フ一點デ永ク有爲ノ人物ヲ患者扱ヒニシテ休養セシメ居ル向ガ日本ニモ皆無デハ無イガ遺憾ナ事デアル。問題ハ解剖的變化ノ有無デハナク、活動能力ノ有無デアルカラ、假令肺尖ノ呼氣ガ延長シテ居ツテモ濁音ガアツテモ、否ナ胸部ニ著シイ陷沒ガアツテモ現ニ熱モナク健康ニ働キ居ル者ナラ之ヲ捕ヘテ肺病ノ銘ヲ打ツテ治療スル必要ハ更ニ無イ、斯クノ如キ古跡的變化ヲイクラ治療シタ所デ夫ガ直リ樣筈ガナイ實ニ滑稽ノ沙汰デアル。

安靜療法實施上ノ注意

進行性ノ病變アル患者ハ完全ニ無熱トナル迄(無論解熱劑ヲ用ヒズニ無熱)安臥ヲ命ズルノデアルガ、其勵行ニハ充分ニ患者ト家人ヲ說イテ掛ラヲバナラヌ、安靜ヲ强要スルノハ決シテ病氣ガ重イカラデナク、之ガ最善ノ方法デアルカラダト云フ意味ヲ充分ニ理解セシメ、安ンジテ否樂ンデ安靜ヲ守ル樣ニセヲバナラヌ、夫デモ時日ヲ經ルニ從テ、往々患者カラ離牀ヲ哀願サレルガ、此時脆クモ患者ト妥協シテ、云ヒナリニナル樣デハ駄目デアル。

サテ安臥ハ如何ニスルカト云フニ、寢臺デモ日本風ノ牀デモヨイガ、何レニセヨ安臥ハ大氣療法ト併行スルトキニ最モ有效デアル事ニ注意セヲバナラヌ。

進行性病機又ハ喀血アル患者ハ如何程安靜ニシテモシ過ギル虞ハ更ニナイ、「チフス」患者ニ要スルト同樣ノ安靜ガヨイ。總テノ筋肉ヲ弛緩セシメ、精神ノ興奮ヲ避ケテ飽クマデ冷靜ニ保チ、言語ヲ節シテ沈默ヲ旨トシ、殆ンド屍體ノ如ク靜カニシテ然カモ悲ム事ナク焦ル事ナク、怒ル事ナク恨ム事ナク、治癒ヲ確信シ感謝ト希望ニ滿チ、常ニ微笑ヲ含ンデ悠然ト横ハルヲ以テ上々トスル。

進行性デ殊ニ重症ナル場合ヤ喀血患者ハ嚴重ノ安靜ヲ要スルガ故ニ、安臥ノ位置ヲ變ズルニシテモ病牀其物ヲ移動セシムルヨリ外無イノデアルガ、少シク輕快シ一寸病牀ヲ換ヘ得ル程度ノ患者ハ、若シ事情ガ許スナラ、二ケノ病牀ヲ備フル事ガ極メテ幸福デアル、一ハ夜間又ハ風雨ノ日ノ爲、他ハ天氣善キ日ノ晝間臥スベキモノデ、斯クスレバ精神ヲ轉換シ爽快ナラシメ、且ツ夜間安眠スベキ病牀ガ一定スル爲メ、晝夜ノ別ナク不規則ニ眠リ不眠ヲ訴フル如キ弊ヲ無クスル便宜ガアル。

患者ガ漸次輕快シ來ツテ離牀ヲ許ス時分コソ最モ警戒ヲ要スル、主治醫ガヨク〳〵具體的ニ指示シ且監督セヌト、籠カラ放タレタ鳥ノ樣ナ氣持デ患者ハ兎角突飛ニヤルモノデアル、例ヘバ昨日マデ絕對安靜ノ人ガ今日ハ忽チ二三丁先キノ海岸ヘ行ツテ見ル如キ事ヲ往々ヤル。故ニ主治醫ハ充分注意シテ愼重ナル漸進主義ヲ執ラシメヲバ九尋ノ功ヲ一簣ニ缺キ、一進一退ヲ反復シテ全治ハ容易デナイ。

精神的安靜

肉體ノミハ如何ニ殊勝ニ安靜ヲ守ツテモ、若シ其精神ニシテ不安ナラバ到底好成績ヲ收メ難イ、然ルニ唯外形ノミノ不徹底ナル安靜療法ヲ行ヒテ著效ヲ見ナカツタカラトテ、安靜ノ必要ヲ疑フ如キ者ガ往々アルガ誤マレルノ甚シキモノデアル。

胸中常ニ煩悶ニ充チ、周圍ニ對シテハ感謝ノ念ナク、些細ノ事ニ憤慨シ、不平ヲ懷キ、家人ノ一言一行ヲ氣ニシタリ入ラザル差出口ヲナシタリ、或ハ歸ヘラヌ事ニ愚癡ヲ云ヒ、天ヲ怨ミ人ヲ恨ミ、他人ノ榮達ヲ羨ミ身ノ不遇ヲカコチ、些々タル利害ヤ體面ノ奴トナツテ日夜安ズル事ナク、白隱禪師ノ所謂「九國ノ合戰ノ如キ」心境デハ食慾カラシテ振フ道理ハナク、病魔ト戰ツテ勝テル見込ハ無イ、若夫レ憤怒ノ如キハ殊ニ有害デ、爲メニ食慾ヲ減ジ心動及呼吸ヲ劇シカラシメ、往々ニシテ發熱、喀血等ヲ惹起スル、又斯クノ如キ人ハ兎角不眠ニモ惱マサレルガ、不眠ガ去ラヌ間ハ眞ノ安靜療法トハ云ヒ難ク、之ガ爲ニ活力ノ消耗ハ著シク、食慾ハ衰ヘ心身ノ疲勞ヲ免レナイ。

此種ノ患者ニ向ツテハ先ヅ努メテ心ノ持チ方ヲ說イテ敎化シテ掛カラヲバナラヌ。又不眠ニ對シテハ或ハ精神的方法、或ハ藥劑或ハ理學的方法等ヲ以テ催眠ノ目的ヲ達セヲバナラヌガ、詳細ハ別ニ述ベルトシテ玆ニハ略スル。

沈默療法

安靜療法ノ一項目トシテ沈默ハ極メテ重要デアルガ此點ハ世人ガアマリ注意ヲ拂ツテ居ラヌ樣デアル。

精神ノ快活ハ無論必要デアルガ、快談縱橫ハ無益有害デアル。況ヤ愚癡ヤ不平ヲヤデアル。無聯ニ苦シミ勝チナ患者ニ沈默ヲ强ユルハカナリ無理デハアルガ、音聲ハ儉約スレバスル程治癒ヲ助ケル、然ルニ患者ノ性癖ニヨツテハ兎角勇辯

ヲ振ツテ困ルノガアル、甚シキハ咳嗽ニ惱ンダリ呼吸促迫ニ苦ミナガラ、連リニ人ノ批評ヤ新聞ノ受賣リナドヲヤリ、見舞人ニハ眞妙ニ見舞ハレズニ、却テ御高話ヲ聞カセテヤル樣ナ態度ヲ取ル患者ガ屢〻アルガ、非常ニ損ナ性質デアル。中ニハ此饒舌ノ一點ガ禍シテ治シ得ナイト認ムベキ者サヘアル。「雄辯ハ銀ナリ、沈默ハ金ナリ」ト云フガ肺病ノ治療上ニ於テハ雄辯ハ鉛ニモ劣ル、然シテ沈默ハ金トモ白金トモ金剛石トモ云ヘヨウ。但シ沈默ト同時ニ悲觀シテ居ツタノデハイカヌ、樂觀的沈默コソ望ム所デアル。

余ハ「ヨク喋ベル肺患者ハ大概治ラヌ」ト考ヘテ居ル、又職業的ニ聲ヲ出ス者ガ肺病ニカヽレバ其業ヲ止メヌ限リハ命ヲ取ラレル事ガ普通ノ運命デアラウ。

局所的安靜ニ對スル特殊ノ操作

肺全體ヲ安靜ニ保ツニ就テハ、全身的安靜ガ無論必要デアリ、又沈默モ大切デアル、其他咳嗽ヲ鎭靜スル手段モ肝要デアリ、クノップノ提唱ノ如ク、意志ヲ以テ呼吸ヲ成ルベク靜カニ且小數ニ減ゼシメル事モ有效デアルガ（第一卷第五號抄錄欄參照）肺ノ一局部ニ病竈アル場合特ニ其部分ヲ安靜ニ保ツ爲ニハ、更ニ特殊ノ方法ヲ必要トスル。

其內最モ簡單ニシテ材料ノ入ラヌノハ臥位ノ選擇デアルウェッブ等ハ罹患側ヲ下ニ臥セシメルト其體重ニヨツテ患側ガ壓迫サレ呼吸運動ガ制限セラレ、從テ安靜ガ保タレルカラ治癒ガ著シク促進セラレルト唱導スル、余等モ同樣ノ考デ實行シテ有效ヲ認メテハ居ルガ、然シ患者ニヨツテハ患側ヲ上ニセナケレバ咳ガ出ルトカ呼吸ガ苦シイトカ訴ヘテ勵行出來ナイ場合モアル、斯クノ如キ者モ漸々慣ラセバ結局患側ヲ下ニナシ得ルニ至ル事モ屢〻アルガ、容易ニ改メ得ヌ場合モアル、其點ニ就テハ更ニ觀察ヲ加ヘタイト考ヘテ居ル。

シューワル及スウェージーハ胸帶ヲ以テ上胸部ヲ卷キテ壓迫シ、熱候其他ノ「トキシエミア」症狀ヲ去リ成績良好ナリト報告シテ居ル。

絆瘡膏法ノ有效ナルコトハ一八九八年頃ニデニソンニヨツテ唱ヘ出サレタ所デ、之ハ余等モ盛ニ利用スル、無論一側丈ケ侵サレ居ル場合、若シクハ他側ノ病變ガ僅微ナル場合ニ限ル、一側ニ空洞アル場合、又ハ一側ニ出血部アル時、胸痛

アルトキノ如キ最モ適當ナル處置デアル。其方法ハ絆瘡膏ノ粘著力ノ優秀ナルヲ選ビ、一寸五分乃至二寸位ノ幅ニ裂キタルヲ五本乃至八本位(胸ノ長サニヨル)用フル、其長サハ脊椎カラ胸骨ニ至ル長サヨリ約二寸程長クスル、夫ハ患側ヲ廻ハシ前後トモ中線外一寸位ヅヽ出ル樣ニ貼リ付ケ子バキカヌカラデアル、先ヅ皮膚ヲ酒精デ淸拭シ呼息ヲナシ患側ノ肩ヲ少シク下ゲタ姿勢デ第一條ヲ第四肋骨ノ邊ノ高サニ貼リ付ケ其直下ニ第二條ヲ同樣ノ注意ノ下ニ貼リ付ケル、尤モ其上緣ハ第一條ト少シ重ナル樣ニスル、斯樣ニ順次下ヘ〳〵トシツカリ貼付ケルト、患側ハウマク壓迫サレテ呼吸運動ハ一定度ニ制限サレル、其結果咳嗽刺戟ヤ喀痰ガ減ジ、解熱ヲ早メ胸痛ヲ去リ、喀血ヲ止ミ易カラシメ、空洞ノ閉塞ヲ促ス、急性的ニ浸潤ヲ起シタ肺ナドニモ有效デ、絆創膏ノ上カラ濕布ヲ施シテモ一向差支ナイ。

此絆創膏法ハ最近ニモ米國ノゴールデンナドカラ推賞セラレタ所デ、輕便ニシテ適應症ガ多イカラ余等モ久シク賞用スルケレドモ、唯遺憾トスル所ハ患者ニヨツテ皮膚炎ヲ起シテ永續ヲ妨ゲル點デアル、夫故亞鉛化絆創膏ヲ用ユルケレドモ、其デモ一週間モスルト皮膚炎ヲ起シ、止ムナク一時取リ去リ、亞鉛化澱粉ノ撒布デ之ヲ治シタ後再ビ貼付スル如キコトモアル。

モ一ツ輕便ナ局所壓迫法ヲ擧グレバ、夫ハ砂囊ノ應用デアル、之ハ空洞ノアル場合トカ、喀血部ガ想像サレル時ナドニ極メテ妙デアル、例ヘバ第二、第三肋骨邊ニ空洞ノ生ズル樣ナコトガ屢〻アルガ、斯樣ナ例デハ患者ヲ仰臥セシメ、其局部ニ砂囊ヲ置ク、先ヅ百瓦位カラ始メ、苦痛ヲ訴ヘヌナラ漸々ト大キサヲ增シ、二百瓦、三百瓦、四百瓦、五百瓦位ニ至ル、斯クシテ局所ヲ出來ル丈ケ壓迫シ陷沒セシメルト、空洞ヲ縮小シ從テ喀痰モ一トキシェミア」症狀モ一般ニ減退スル。

一體胸部ガ著シク陷沒スル患者ハ、外見ノ大袈裟ナ割合ニ概シテ經過ガ良好デアルノハ何人モ氣付ク所デアルガ、カク自然的ニ陷沒シ難イ患者ニハ上述ノ如キ人工的補助ヲ加ヘルコトガ合理的デアル。又空洞ハナク唯浸潤ノミノ場合デモ無論有效デアル。

喀血ノ局部ニ施ス場合ニハ此砂囊ヲ冷水ニ浸シ充分ニ水ヲ絞リ切ツタノヲ載セルト壓迫ト冷却ノ二ツノ目的ヲ達スル便

ガアル、之ハ既ニ先輩モ行ツタ所カモ知ラヌガ、余ハ數年前カラ之ヲ試ミ、意外ノ好成績ニ患者カラモ喜バレル、殊ニ氷ヲ得ルニ不便ナ場合ナド甚ダ好都合デアル、尤モ砂囊ヲ水ニ濡ラシテ用フル場合ニハ、其砂ヲ豫メ清洗シ且又一度煮沸消毒シテ置クガ安全デアル、然ラザレバ不潔ノ液ガ浸ミ出シテ皮膚炎ナドヲ起ス恐ガアル。

又一側ノ肺ガ比較的廣ク侵サレ居ルトキハ、上ニ載セルモノ丈デハ足ラヌ、胸側ニ置ク枕形ノ砂囊ガ二、三入用デアル之ヲ胸側ニ積ミ重ネ、胸ノ上ニモ輕イノヲ載セ胸半分砂ニ包ム樣ニスル。

以上ハ何レモ實行容易ナルモノデアルガ、更ニ少シク面倒ナ方法ニナルト、人工氣胸療法、肋骨切除法、肋膜外充塡法(脂肪組織又ハ「パラフィン」ヲ用フ)横隔膜神經切斷法等ガアル。就中人工氣胸ト肋骨切除ハ比較的廣ク應用セラレル(人工氣胸療法ニ就キテハ本號質疑應答欄村尾學士ノ回答參照)。

之ヲ要スルニ、肺結核ノ安靜療法ハ大氣療法主義ノ下ニ精神ノ安靜ト全身的安靜ヲ勵行シ、之ニ加フルニ肺自身ノ安靜就中病變部ニ對スル局所的安靜ヲ企圖セネバ徹底セヌガ、之ニハ主治醫モ患者モ、亦看護人モカナリ注意深ク且ツ眞劍デアラネバナラヌ。

以上ノ諸點ニ充分ノ注意ヲ拂ヒ親切熱心ニ治療スルトキ、結核(殊ニ初期結核)ハ所謂特效藥ナシニ存外治シ易キコトヲ了解シ、同時ニ一般ノ結核治癒ノ效ヲ濫リニ所謂特效藥ニ歸スルノ早計ヲ免レルヲ得ヤウ。

安靜ハ神ノ與フル副木ナリ(サミューエル、ゴールデン)

(Rest is Nature's splint .... Samuel Golden)

抄録

種痘ト結核「アレルギー」

ウィーゼ

(Beitr. z. Kl. d. Tuberkulose Bd. 42. S. 350. 1919.)

結核性疾患アル兒童ニ於テハ種痘ニ由テ腺病質著明トナリ、症狀增惡スル虞アルガ故ニ之ヲ延期スルヲ至當トナスベキハ成書ニ說ク所ナルガ、一般ニ種痘ガ結核殊ニ肺結核患者ニ如何ニ影響スルカニ就テノ文獻ハ寡シ、著者ハ一九一九年獨逸ニ於ケル天然痘流行ニ際シ「カイゼリン、アウグスト、ヴィクトリア結核療養所」收容患者二二六名ニ對シ、種痘ヲ施行シタルニ、之ニ由リ何等格別ノ惡影響ヲ見ズ、唯一例、喀血癖ノ患者ニ於テ第五日ニ小喀血ヲ見、他一例ニ於テ胸部症狀或ハ增惡セリト見ラルベキモノアリタルノミ、尙是等ノ患者ニ就キ種痘經過中ピルケ氏皮膚反應ヲ試ミ、特ニ種痘ニ由ル「アヲルギシエ、ペリオデ」ナルモノヲ見ズ卽チ種痘經過中ニ於テ特ニ防禦機轉ガ低下スルトハ思惟スル能ハズト結論シ、天然痘流行時ニ於テハ結核患者ト雖モ種痘スベキヲ奬メタリ、尙氏ノ患者ハ大部分相當重症ニ屬スルモノナリシト云フ。

氣管靜脈瘤ヨリノ喀血

マンチック

(Rev. d. l. Tuberc., 1922.)

氣管靜脈瘤ノ破綻ハ勿論屢〻アルモノナラズト雖モ而カモ記錄ニ洩ル、例ハ相當多カルベシ。多クハ中年者ナレドモ二十乃至三十歲ニモ來ルコトアリ、喀血ガ唯一ノ症候ニシテ一日ニ半「リーテル」位ニ達スルコトアリ、何等前驅症ナシニ屢〻咳嗽頻發後ニ起ル、喉頭鏡檢査ニヨツテ診定セラル、コトアリ、結核性喀血ト誤認セラル、コトモ多シ、治療ハ燒灼法ヲ用フ、硝酸銀ヨリモ「クロム」酸等有效ナリ、「アドレナリン」モ用ヒラル、治癒ニハ數月或ハ數年ヲ要スルコトアリ。

(遠藤)

結核ト誤診サレ易キ肺「アクチノミコーゼ」

ペッサー

(N. Y. Med. J. May. 16, 1923.)

肺結核ト思ハシムル諸症狀アルモ其喀痰ニハ結核菌ヲ見出

(熊谷安正)

サヾリシ一例ニテ第九第十肋骨ヲ浸シ胸廓ノ表面ニ表ハレタリ、「アクチノミコーゼ」ハ歐洲ニハ稀ナラズ、藁又ハ野菜ヲ取扱フコトニヨリテ侵サル、ナラン。（遠藤）

結核ト誤診サレントセル骨盤炎

ブラウト

(Klin. Wchnschr., Februar. 1923.)

六歳ノ一兒童、結核患者ノ子、四週間前ヨリ盜汗アリ其母ノ氣附キシ所ニヨレバ四ケ月前ヨリ肛門ノ近傍ニ腫脹アリ診察ノ結果肺門部ノ結核ヲ示セリ、ピルケ反應ハ人型菌「ツベルクリン」ニハ陽性ニシテ牛型ニハ陰性ナリ。痔瘻ハ七・五糎ノ深サアルモ直腸ト交通セズ。

ワッセルマン氏反應ハ陰性、痔瘻ハ結核性ト診斷セリ、之ニ手術ヲ施シタルモ治癒ニ至ラズ、其後八ケ月ニシテ第二回ノ手術ヲ施行セシニ其際消息子ハ骨ニ觸レタリ、終ニ瘻管ヲ辿リテ恥骨ノ水平枝ヨリ腐骨片ヲ除去シタリ、其ニ就キテ鏡檢スルモ結核性ノ特徴ナシ、此例ハ實ニ恥骨ノ骨髓炎ニシテ稀有ノ例ナリシナリ。フレーチル氏ノ骨髓炎五百四十五例中恥骨ヲ侵シタルハ十例ノミ、又本例ガ痔瘻トシテ表ハレシコトモ珍ラシキ點ナリ。（遠藤）

喉頭結核ニ對スル「クリゾルガン」

ウェーベル

(Beitr. z. Kl. d. Tub. Juni, 1922.)

十例ニ靜脈注射ヲ施シタリ、喉頭ノ病竈ニハ著明ノ反應アルモ肺ニハ起ラズ、大部分ハ「クリゾルガン」ノミニテ好成績ヲ擧ゲシモ一部分ハ電氣燒灼ヲモ併用シテ好結果ナリキ肺結核ノ方ニハ好影響ヲ認メザリキ、用量ノ注意必要ナリ少量（〇・〇二五乃至〇・〇五）ニテ可ナルコト多シ。（遠藤）

結核病ノ金療法

シェルレンベルグ

(Deutsch. med. Wchnschr. April 1922.)

著者ハ結核ノ金療法ニ關スルレヴェー氏ノ業績ニ對シ嚴重ナル批判ヲ試ミタリ、「クリゾルガン」療法ハ「ラッセル」ヲモ濁音ヲモ減退セシメザリシト云フ。（遠藤）

談叢

「ヴヰタミン」Aハ果シテ結核ニ有效ナリヤ

東京市療養所醫局同人
遠藤繁清

(一)

肝油ガ結核患者ニ好影響ヲ及ボスコト多キハ確カナル事實ナリ、而シテ所謂「ヴヰタミン」Aハ肝油ニ含有セラルヽ一成分ナリ、然カモ榮養學上頗ル興味アル物質ナリ、於是「ヴヰタミン」Aガ結核患者ニモ或ハ好影響アルベキカトノ希望ヲ懷クハ必ズシモ不自然ニアラザルナリ。然レドモ、其果シテ然ルヤ否ヤハ實地ニ當リ冷靜ニ試驗シテ後始メテ決スベキ問題ニシテ、唯前述ノ如キ希望ノミヲ先入主トシテ速斷スベキモノニアラザルヤ論ナシ、然ルニ理化學研究所ノ化學者ノ手ヨリ製出發賣セラルヽヤ、早ク既ニ世上結核特效藥トシテ喧傳セラルヽニ至レリ。余等ハ久シク肝油ヲ結核患者ニ賞用セル關係上「ヴヰタミン」Aノ亦試ムベキヲ思ヒ、理化學研究所ニ其分讓ヲ乞ヒ、昨年三月ヨリ療養所內ニ之ガ試用ヲ開始スルコトヽナシタリ、爾來醫局ノ同人各自治療ノ患者ニ試ミテ其概念ヲ得タルノ感アルヲ以テ左ニ其一部ヲ紹介セント欲ス、猶此記載以外ニモ實驗例アレドモ實驗者ノ都合上本號ニ執筆スルノ運ニ至ラズ、他日或ハ其時機ヲ得ルナラン。

而シテ療養所內ノ觀察ハ同人ノ筆ニ讓リ、余ハ療養所外ニテ昨年三四月中經驗セル五例ニ就キテ略記センニ、其三例ハ下痢及嘔氣ヲ起シテ一週間內外ニテ廢シ、一般療法ニヨリテ何レモ輕快セリ。他ノ二例ハ約二ケ月間使用シタルモノニテ、甲例ハ輕快、乙例ハ無影響、而シテ甲ハ第二期患者ニシテ一般的療法ニヨリ「ヴヰタミン」A使用前既ニ良經過ヲ取リ居タルモノナリ。乙例ハ第三期患者ニテ「ヴヰタミン」A使用中時々消化障碍アリシモ兎モ角モ一ケ月餘リ連用シ得タルガ、何等好影響ナク、中止後ハ一進一退ヲ呈シ其經過ノ良否ハ大體安靜ノ嚴守セラレタルヤ、否ヤニ左右セラルヽコト顯著ナリキ。

要スルニ余ハ理研ニテ製出シ「オリーブ」油ニ溶解シ「カプセル」ニ入レテ發賣セル所謂「ヴヰタミン」Aナルモノヲ結核治療ニ推賞スルノ勇氣ナク、寧ロ肝油其物ヲ奬勵スルコト從來ノ如クニテ、「ヴヰタミン」Aニ就キテハ左ノ如キ想像ヲナセルコトヲ附記ス。

「ヴィタミン」Aハ「ヴィタミン」A缺乏症ニハ勿論有效ナル筈ナレドモ、普通ノ結核患者ニハ必ズシモ「ヴィタミン」Aノ缺乏ナカルベシ、少クトモ其確徵ヲ認ムル例ニ遭遇セズ又重症等ニテ殆ド食餌ヲ攝取セザル場合ナド、或程度ノ「ヴィタミン」A缺乏狀態ニ在ルベケンモ、カヽル患者ハ「ヴィタミン」問題以上ノ重大ナル疾病狀態ニ在ルモノナルガ故ニ、如何ニ「ヴィタミン」Aノミヲ輸入シタリトモ、サシタル好影響ヲ示サヾルニアラザルカ。又理化學研究所ニテ「ヴィタミン」Aヲ分離シタル後、之ヲ溶解スルニ「オリーブ」油ヲ採用シタルハ無論臭氣ヲ少カラシメン爲ナルベキモ、消化ノ點ヨリスレバ寧ロ肝油ニ溶キタル方可ナルニアラザルカ、肝油ガ「オリーブ」油ニ比シ極メテ消化サレ易キハ周知ノ事實ナリ。何レニセヨ、「ヴィタミン」Aヲ更ニ試驗セントナラバ、從來發賣ノ物ノ如キ消化障碍ノ起リ易キ形ヲ避クルヲ要スベシ。

（二）　溝淵忠雄

「ヴィタミン」Aノ出現ハ一時結核治療界ヲ風靡スルカノ觀ガアツタ、私モ其ノ風潮ニ驅ラレテ五六ノ患者ニ之ヲ試用シタ。

其ノ第一例ハ「ヴ」Aノ效力ヲ一概ニ否定シ去ルヲ得ナイ樣ナ良經過ヲ取ツタ。簡單ニ其ノ經過ヲ記述スレバ、一昨年春右側肋膜炎ヲ病ミ旬日ニシテ高熱ハ去ツタケレドモ以後三十七度三四分ノ微熱ガ持續シテ居ル十五歲ノ少年ヲ一昨年ノ七月ニ初診シタ、當時ノ所見ハ榮養中等、脈搏百十至、右肺ハ側面及後面ノ下部ニ於テ輕濁音ヲ呈シ呼吸音微弱少許ノ摩擦音ガ聞エル、左肺ハ肺尖部輕濁デアツテ前モ後モ上モ下モ全體ニ亙ツテ大中小樣々ノ水泡音ヲ聞ク、腹部其他異常ナク食慾睡眠等佳良咳嗽喀痰ナシ。體溫ハ數日ノ後正常ニ復シ月日ノ經過ト共ニ肥滿ノ度ヲ加ヘ右肺ノ所見ハ益〻不明瞭トナルケレドモ、左肺ノ所見ハ少シモ變化セズシテ昨年ノ正月ヲ迎ヘタ、二月ニナツテモ同樣デアルカラ當時大流行ノ「ヴ」Aヲ初メ一日三粒一週以後六粒宛ヲ與ヘタ所、過去半年餘ノ間規則的ナ一般療法ニ頑强ニ抵抗シタ水泡音ハ驚ク可シ、「ヴ」Aヲ使用シ初メテ約二週目ニ減退ノ傾向ヲ示シ、四週目ニハ著シク減少シテ大體肺尖部ニ限局スル樣ニナツタ（其後水泡音ニハ多少ノ消長ハアツタガ當今デハ殆其レヲ證明シナイ左側鎖骨上窩及下窩共ニ凹陷シテ治癒ノ狀態ニ達シ脈搏ハ最近ニ至リ漸ク九十至トナツタ）。之ノ例ニ於テ「ヴ」Aハ水泡音ノ消失ニ對シ必然的ナ效力ガアツタカモ知レナイ、又水泡音消失ノ時期ガ偶然「ヴ」

使用ノ時ニ一致シタノカモ知レナイ、何レニシテモ私ハ「ヴ」Aニ興味ヲ感ジタノデ其ノ後五例ニ之ヲ使用シタガ何レノ例ニ於テモ「ヴ」Aノ效果ラシイモノヲ認メ得ナカツタ。若シ「ヴ」Aガ結核ニ對シテ何等ノ效力ヲ有タナイナラバ、第一例ハ偶然デアリ後ノ五例ハ必然デアロー、若シ「ヴ」Aニ效力ガアルナラバ第一例ハ適應症ニ於ケル必然デアリ後ノ五例ハ非適應症ニ於ケル必然デアロー。私ハ少數ノ治驗例ヲ以テ「ヴ」Aノ效力ヲ云々スル事ハ出來ナイ、猶機會ガアルナラバ「ヴ」Aヲ使用シテ第一例ノ良經過ガ必然デアツタカ偶然デアツタカヲ解決シ度イト考ヘテ居ル。

（一三、一、一六、）

（三）　涌谷重治

大正十二年四月第一回日本結核病學會ニ於テ牛島氏ハ「ヴキタミン」Aト「エルボン」トヲ肺結核患者ニ併用シ、良好ナル成績ヲ得之レヲ報告セラレタルヲ以テ、余モ亦十數名ノ患者ニ之レヲ用ヒタルモ、所期ノ成績ヲ得ザリシヲ以テ之レヲ中止シ居タルニ、偶〻遠藤副所長ヨリ其ノ成績ヲ概括スルヤウ慫慂セラレタルヲ以テ、左ニ其ノ臨牀的所見ヲ述べ其ノ示教ヲ仰ガントス、余ガ使用セル「ヴキタミン」Aハ理化學研究所ノ製造ニ掛ルモノニシテ一日「カプセル」入六ケヲ用ヒ下熱劑トシテ「エルボン」二乃至三・〇又ハ「ピラミドン」〇・三乃至〇・四ヲ共用セリ。

使用量、病症ノ選定、觀察ノ方法等ニ就ヒテハ異論アルベキモ、余ハ最モ長ク用ヒテ其ノ經過ヲ觀察シ得タリト思意セラル、モノ八例ヲ選ビテ其ノ臨牀的所見ヲ表示シ、以テ其ノ判定ノ一助トナサントス、勿論カ、ル少數例ニヨリ其ノ效果ヲ斷定スルコト能ハザルハ明カナリ。

第一例　[redacted]　女　三十三年　第一期

發病大正十年十二月

菌	肺	所見	熱	脈	咳嗽	喀痰	盜汗	惡寒	睡眠	食慾	體重	自覺
ヴキタミン 6/IV	+	右肺尖短水泡音	+37.5	−90	⧻	⧻	+	+	⧻	⧻	11.900	良
ヴキタミン 20/IV	+	〃	+37.5	+90	⧻	⧻	+	+	⧻	⧻	11.940	良
ヴキタミン 18/V	+	右前第二肋間ニ至ル水泡音	−37.5	−90	+	+	−	+	⧻	⧻	12.070	良
ヴキタミン+ピラミドン0.3 6/VI	+	右前第三肋間右後肩胛間上部	−37.5	−90	⧻	+	⧻	+	⧻	⧻	12.200	良
ヴキタミン+ピラミドン0.3 6/VII	+	〃	+37.0	+90	+	+	⧻	+	⧻	⧻	12.360	良
ヴキタミン+ピラミドン0.3 6/VIII	+	〃	+37.0	−90	⧻	⧻	−	+	⧻	⧻	12.500	良

第二例

[redacted] 女 二十八年 第一期

發病大正十一年九月

此ノ患者ハ時々喀血アリ 6/VIII 後三回喀血（表中數字ノ前ニアル十又ハ一ハ以上又ハ以下ノ意ナリ、諸症狀ノ十 ++ +++ 等ハ其程度）ヲ示ス。以下之ニ同ジ。

	6/IV	23/IV	ヴキタミン	6/V	6/VI	6/VII	ヴキタミン十エルボン 1.5	6/IX	在現
菌	+	+		+	+	+		+	+
肺	右前第二肋間腔					右前第三肋間腔			
所見	右後肩胛間上部					二至ル水泡音			
熱	+37.0	+37.0		+37.0	+37.0	+37.0		+37.5	+37.0
脈	+90	+100		+90	+100	+90		+90	−90
嗽咳	++	++		++	++	+		+++	+++
痰喀	+	+		+	++	+		+++	++ 客血三回
汗盜	−	+		−	−	−		−	−
寒惡	−	−		−	−	−		−	+
眠睡	+++	+++		++	++	+++		+	+
慾食	+++	+++		+	++	+++		+	+++
重體	9.060	9.040		9.360	9.820 心惡 腫水	9.700		10.000	12.720
覺自	良	良		不	不	不		良稍	良

第三例

[redacted] 女 二十九年 第一期

發病大正十年七月

第四例

[redacted] 女 二十三年 第二期

發病大正十一年七月

	16/V	30/V	16/VI	ヴキタミン十ピラミドン0.3	16/VII	8/IX
菌	+	+	+		+	+
肺	右前第二肋間腔					
所見	右後肩胛間上部 打診音短水泡音					
熱	+37.5	+37.5	−37.5		+37.5	+37.5
脈	+90	+90	+90		+90	−90
嗽咳	+	+	+		+	+
痰喀	+	+	+		+	+
汗盜	+	−	−		+	+
寒惡	+	−	−		+	−
眠睡	+++	+++	+++		++	+
慾食	+++	+++	−		−	++
重體	10.730	10.60	10.940 痛腹吐嘔			11.300
覺自	良	良	不		不	良

第五例

[redacted] 女 三十四年 第二期

	17/IV	17/V	ヴキタミン十ピラミンド0.3	17/VI	在現
菌	+++	++		++	+++
肺	右前第四肋間腔			左前第二肋間腔	右後肩胛間下部
所見	左後肩胛間中部			右後肩胛間上部	右後肩胛間下部
熱	+37.5	+37.5		+39.5	+39.0
脈	+90	+90		−100	−100
嗽咳	+++	++		+++	+++
痰喀	+++	++ 血喀小		+++	+++
汗盜	++	−		+++	+++
寒惡	+	−		+++	+++
眠睡	+++	++		++	++
慾食	+	+		−	+
重體	9.800	9.850		9.600	8.200
覺自	良	良		不	不

第六例 [redacted] 女 三十一年 第三期

發病大正十年四月

	7/IV	20/IV	7/V	7/VI	7/VII	在現	6/VII	20/VII	6/VII
			ヴキタミン+エルボン 2.0				ヴキタミン+エルボン2.0		
菌	++	++	+	++	+	++	+++	+++	+++
肺所見	左前第三肋間腔後肩胛間中部		,,	左側胸痛	左前記右前肺尖	左前記右第二肋間	左前記右後肩第三肋間胛間中部	,,	左前第六肋間腔左後肩胛間下部右肺尖部
熱	+38.0	−38.0	+37.5	+38.0	+37.5	+38.0	+38.0	+37.5	+38.0
脈	+100	−110	+100	+100	+100	+90	+90	+90	+90
嗽咳	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++	+++
痰喀	+++	+++	+++	++	+++	+++	+++	+++	+++
汗盜	+	−	+++	+++	+	+	−	−	+
寒惡	−	+++	−	+	−	+++	−	−	−
眠睡	++	+++	+++	++	++	+++	++	++	++
慾食	++	++	++	++	++	+++	+++	++	+++
重體								10.450	10.600
覺自	不	不	良	不	良	不	不	良	良

第七例 [redacted] 女 三十三年 第三期

發病大正六年三月

	6/IX	在現	6/VI	6/V	6/VI	在現
				ヴキタミン+ピラミドン1.4		
菌	+++	+++	+++	+++	+++	+++
肺所見	,,	,,	,,	,,	左右前後肩胛間中部第六肋間腫	,,
熱	++37.5	+37.5	−39.0	−39.0	+39.5	+38.0
脈	+90	+90	+100	+100	+100	+100
嗽咳	+++	++	++	+++	+++	+++
痰喀	+++	++	++	++	+++	+++
汗盜	++	−	++	++	+	+
寒惡	+	+++	++	++	+	+
眠睡	++	++	++	+	++	++
慾食	++	++	++	++	++	+
重體						
覺自	不	不	不	不	不	不

第八例 [redacted] 女 十八年 第三期

發病大正十一年一月

	6/IV	20/IV
菌	−	+
肺所見	左前全部後全部右前後上部	,,
熱	+37.0	+37.0
脈	−90	−90
嗽咳	++	+
痰喀	+++	++
汗盜	−	−
寒惡	−	−
眠睡	+++	+++
慾食	+++	+++
重體	9.640	9.800
覺自	良	良

6/V	+	〃	+37.0	+90	+	++	−	−	++	++	9.340	不
6/VI	+	〃	+37.0	−90	+	++	−	−	++	++	10.020	不
10/VII	死亡											

此ノ患者ハ五月中旬ヨリ腎臓炎症狀ヲ呈シ浮腫ヲ來タシ體重ノ增加ヲ誤マラシム

前記ノ實驗ニ徵スルニ第一期患者三例ニ於テ牛島氏ノ推奬セラル、ガ如キ下熱ノ好成績ヲ得ズ食慾ニ於テハ惡心嘔吐ヲ起シタリト思ハル、モノ三例中二例アリ、咳嗽喀痰ニ影響ナク體重ハ稍〻增加ノ傾向ヲ示セルモ自覺症ト相殺シテ體重ノ增加ノミヲ標準トシテ病勢ノ如何ヲ論斷スル能ザルハ明カニシテ、殊ニ其ノ治癒ニ對シテノ豫後ハ長キ觀察ヲ要スルコトハ本所患者ニ於テ常ニ見ル所ナリ、二期患者二例ニ於テハスベテノ臨牀症狀ハ「ヴ゛タミン」Aニヨリテ影響ヲ認メズ病變ハ依然トシテ進行ヲ示セリ。第三期患者三例ニ於テハ稍〻下熱ノ傾向ヲ示セルモカ、ル下熱ハ結核患者ニ於テ敢エテ「ヴ゛タミン」Aニヨルモノト速斷スル能ハズ肺所見ハ依然進行シスベテノ症狀ハ殆ンド影響ヲ受クルコトナキガ如シ。

要之ニ「ヴ゛タミン」Aニヨリ推賞スベキ效果ハ認メガタク唯新藥ナルノ故ヲ以テ稍〻神經的ニ奏效セリト思ハル、ガ如キコト多キヲ遺憾トス。

（四）　春木秀次郎

私ハ結核患者ガ種々ノ原因デ、殊ニ腸結核ノ爲メデ、食餌ノ攝取ガ不充分ニナルカ、或ハ偏スルトカスルト、脚氣症狀ヲ起スノハ可成多ク見ル所デアルガ然シ「ヴ゛タミン」Aノ缺乏症候ヲ呈スルノハ殆ンド見ナイ。

斯樣ナ「ヴ゛タミン」Aガ缺乏シテ居ナイ患者ニ「ヴ゛タミン」Aヲ與ヘテ結核ノ經過ニ良好ナル結果ヲ及ボスヤ否ヤハ全ク不明ニ屬スル問題デ、猶今後ノ研究ニ待ツ外ハ無イ。

結核患者ハ「ヴ゛タミン」Aノ消費量ガ健康者ヨリ多イ、從ツテ多量ノ「ヴ゛タミン」Aヲ與ヘル必要ガアル樣ニ云ハレテ居ルガ、之レニ對スル確證ハ無イ樣ダ。

或ハ細胞ノ石灰ヲ固著スル能力ヲ高メル事ト關係ガアルトカ、或ハ「ヴ゛タミン」A缺乏ハ「ガス」代謝ヲ低下セシムルカラ此「ヴ゛タミン」ハ酸化作用ヲ促進スル力ガアルト云ハレテ居ル。

私ハ六名ノ患者ニ理研製造ノ「ヴ゛タミン」Aヲ一名ハ七日間他ハ二十日以上八十日間與ヘテ先ヅ臨牀上ノ觀察ヲナシ

タ。

其中三名ハ食慾不振、嘔吐、腹痛ノタメニ中止シタ。

二名ハ輕熱デ比較的速脈アルモノニ用ヒテ見タガ脈搏數ニハ何等ノ影響ガ無カツタ。

盜汗ハ六例ノ患者中只一人重症患者デアツタノミデ種々ナル方法デ止メルコトガ出來ナカツタノニ「ヴヰタミン」Aヲ用ヒタ日ヨリ二週間全ク出ナカツタノハ著シイ例デアツタ。

大體ニ於テ咳嗽、喀痰、體溫、脈搏數其他一般狀態ニ關シテハ何等臨牀上認ム可キ變化ガ無カツタ。

只食慾不振ノ爲メニ使用時中體重減ジタル例アリシモ、カカル患者ハ本來適應症デナイトシテ、服用ニ堪ユル例ノミニ就テ有效無效ヲ論ズベキデアルカモ知レヌ。

以上ノ貧弱ナル少數ノ患者ニ對シテ短日間行ツタ試驗デハ「ヴヰタミン」Aノ結核ニ對スル效果ヲ云フコトハ出來ナイ猶多數ノ患者ニ長時日使用シテ、一般症狀ノ外患者ノ新陳代謝ニ及ボス影響、結核菌ニ對スル防衛力ノ消長等充分ナル檢索ノ完成セザル今日ニアリテハ、此問題ニ對シテ決定的ノ言辭ヲ弄スルハ尙早ナリト信ズル。

（五）　佐々虎雄

「ヴヰタミン」Aニ就テノ自己ノ實驗ニヨル感想ヲトノ注文デアルガ、私ノ例ハ僅々十數例ニスギズ且ツ目的ガ他ニモアツタノデ、投與期間モ一週間乃至二週間デアルノデ其ノ價値ヲ云々スルコトハ烏許シイ次第デアルガ、トニカク左ニ結果ヲ報告スルコトヽスル。患者ハ何レモ二期及三期、熱ハ最高八度ニ達セザルモノ、實驗ノ都合上胃腸障碍ナキモノ且ツ又相當長期間其ノ經過ヲ觀察シ種々ノ藥劑モ左シタル影響ナカリシモノヲ選ンダ、私ノ目的ハ「ヴヰタミン」Aノ「カルチウム」新陳代謝ニ對スル影響ヲ見タイノデアツタガ、地震ノタメニ實驗中止スルノ止ムナキニ至リ、未ダ發表ノ域ニ達セナイガ、小數實驗例デハ大シタ影響ナイヤウニ今マデノハナツテキル、體重ハ動搖先ヅナシ、下熱作用ヲ見ズ、一回二ケ一日六ケ位ナレバ先ヅ胃腸健全ナル人ナレバ障碍ヲ來スコトナシ、他覺的症狀變ナシ、コレハ全例ニ通ジタ結果デアル、自覺的ニハ服用期間又ハ其ノ後マデ多少好影響ヲ見セタモノガナイデモナイガ、一例ハ中止後三日ニ發熱肋膜炎ヲオコシ、次デ氣胸ヲ誘發シタシ、一回二粒位デ既ニ多少胃腸ヲソコナツタ例モアルカラ、私ハコレヲ「ヴヰタミン」ノ罪ニシタクナイト同時ニ、多少有效ラシイ例デモ直ニ「ヴヰタミン」ノ作用ニ歸スル勇氣ガナイ

ノデアル。コレヲ要スルニ二期三期ノ結核患者ニ一日六粒位ツヽ一二週間用ユル位デハ先ヅ大シタ效ガアルモノデナイト云ツテ大過ナイト思フ。シカシ不充分ナ實驗例デイタヅラニ「ヴヰタミン」Aノ攻擊ヲスルモノデハナイ。適應ノ如何ニヨリテハ有效ナコトモアルベシトハ信ズルガ、又世間ニハ肺結核患者ハ永イ經過中ニハ何等ノ藥劑ナシニ不思議ニ一時良好ニナルコトガアルコトヲ知ツテ居ナガラカ知ラズニカ僅カノ例デ直ニ其ノ藥ノ價値ヲ斷定シテアセリニアセツテヰル患者ヲ經濟上却ツテ苦シマシムルカノ如キ醫者ガアルノガ遺憾ダカラ、アヘテ劣筆ヲ振ツタ次第デアル。

（一八）　柴田正名

大正十二年三月一日ヨリ同年八月末日ニ至ル期間ニ於テ肺結核患者九名ニ理化學研究所製ノ「ヴヰタミン」Aヲ服用セシメ治療的效果ヲ實驗セリ。既知ノ如ク微熱輕症ノ結核患者ニアリテハ何等特別ノ療法ヲ俟タズシテ症狀消失シ體重增加ヲ見ル事少ナカラザルヲ以テコノ實驗ニハ主トシテ第二期ノ中等症ニテ三十七度五分乃至三十八度ノ有熱患者ニテ體重漸減ノ傾向アルモノヽミヲ選ミタリ。

用量ハ初量一日三粒適宜增量シテ六粒トシ、連用期間ハ消化器障碍ノタメニ一ケ月ニテ中止セルモノ二名ノ外ハ二ケ月乃至六ケ月ニ亙リ繼續使用セリ。

是等九名ノ患者ニ於テ「ヴヰタミン」A使用中精神爽快トナリ食慾稍〻增進セルモノ二例、熱ノ少シク降下セルモノ三例ヲ數フルモ其他ニ於テハ自覺的及他覺的症狀ニ好影響ヲ及ボセリト確實ニ認メ得ベキモノナシ、內三例ハ症狀增惡シ該期間中ニ鬼籍ニ入レリ。而シテ體重ニ關シテハ九例ヲ通ジテ增加セルモノ一人モ無ク盡ク漸減ノ傾向ヲ追ヘリ。次ニ「ヴヰタミン」Aノ連用ヲ廢止セル後ニ於ケル經過ヲ見ルニ榮養狀態ソノ他ニ就キ「ヴヰタミン」A使用中ト比較シ何等ノ變化ヲ見ザルノミナラズ時恰モ秋冷ノ好季ニ入ルヤ殘存セル六名中四名ハ他ノ多數ノ患者ト共ニ食慾增進シ體重ハ日ト共ニ增加シ諸症輕快ニ向フヲ見タリ。卽チ天然ノ慈光ハ「ヴヰタミン」Aヲ凌駕スル事數等ノ效果ヲ呈セルノ感アリ。

コノ實驗例ニ於ケル觀察ニヨレバ「ヴヰタミン」Aノ肺結核ニ對スル治療的效果甚ダ顯著ナラズ、何等特效トシテ認ムベキモノナキガ如シ、少數例ニ於テ稍〻好影響ト見ラルベキモノアレドモ而モソハ自然的ニモ亦他ノ藥物ニヨルモ容易ニ期待シ得ル程度ノモノニ過ギズ。

少數ノ限ラレタル實驗例ニ基キ斷定的言辭ヲナス事ハ元ヨ

リ避クベキ事ナレドモ余ハ之レニ依リテ「ヴヰタミン」Aヲ肺結核ノ特效藥ノ如ク誇大ニ宣傳スルハ世ヲ毒スルノ甚ダシキモノナリトノ感想ヲ深フセリ。

（七）　寺尾殿治

實驗例　[redacted]　二十五年　男

現症　主トシテ左肺尖部ニ病竈アリ。腹部ニモ腹膜後淋巴腺結核ヲ有ス。大正十二年六月十三日以前ハ大體、體溫ハ三十七度臺ナリシモ同日ヨリ不明ノ原因ニヨリテ發熱稍〻高ク三十八度四分迄ノ弛張熱アリ時ニ四十度ニ及ブ事稀ナラズ。脈搏九十以下。便通一、二回ナルモ下痢便ニ近シ。尿量常ニ少シ。盜汗甚シク食慾中等度ナリ。咳嗽、喀痰ハ多カラズ、痰中常ニ少數ノ結核菌ヲ證明セリ。

「ヴヰタミン」A使用　盜汗治療ノ目的ヲ以テ「カンフル」酸或ハ「アガリツイン」等ノ服用又ハ寢衣ヲ薄クスル等ノ手段ヲ講ゼシモ遂ニソノ目的ヲ達セズ、依テ或ハ「ヴヰタミン」Aヲ用ヒテ之ヲ治シ得ンカト思ヒ、患者ニハ實ヲ明サズ、「ヴヰタミン」Aヲ六月十六日ヨリ一日三粒宛服用セシメ、食慾ヲ害セザラムガ爲別ニ「ペプシン」、「ヂアスターゼ」ヲ服セシム。

「ヴヰタミン」Aノ效果　投藥シテヨリ約一週間ヲ經ルモ當初ノ目的ヲ遂ゲズ、而モ患者ハ該「カプセル」ヲ服用セバ腹部グル〳〵トシテ熱スル如ク「ノボセ」甚シクシテ氣持惡シト訴フ。爰ニ於テ余ハ該藥ハ目下靈名高キ「ヴヰタミン」Aナリ、若シ君ニシテ望マズムバ直ニ之ヲ除クベシト云ヘバ患者稍〻暫ク默想シテ後連用スベキ旨ヲ答フ。爾來六月十二日迄約四週間更ニ著效ヲ見ズ、加之發熱四、五分高ク咳嗽喀痰ヲ增シ、食慾減退シ體重約二百匁ヲ失フ、然カモ獨リ患者ノ氣持ノミハ爽快ヲ覺エタリ。僅カニ一例ナレドモ必ズシモ意義ナキニアラザルガ如シ。依ツテ敢テ追加ス。

（八）　鈴木左内

「ヴヰタミン」Aノ肺結核患者ニ及ボス影響ニ就イテハ其ノ判定容易ナラザルモ、今自分ハ臨牀的ニ稍〻永ク其ノ觀察ヲ續ケ得タル者ニ就キテ其ノ有リノ儘ヲ述ベントス。

自分ハ是等ノ實驗例ニハ前以テ患者ニ「ヴヰタミン」Aナルモノナルコトヲ知ラシメテ服用セシメタリ、當時「ヴヰタミン」Aナルモノガ世上ニ喧傳セラレツヽアリシコトハ勿論ニシテ、殊ニ肺結核患者ガ當時「ヴヰタミン」Aニ心ヲ引カサレタルコトハ、此所ニ贅言ヲ要セズ、サレバ後ニ記載スル例ニ於テモ、精神的關係ノ加ハリ居ルコトハ勿論ナルベシ。

此ノ實驗ハ大正十二年五月ヨリ八月ニ亙リテ行ヒタル者ノミナリ。

本試驗ニ用ヒタル「ヴィタミン」Aハ理化學研究所製造ノモノナリ。

第一例 [redacted] 一九歳 男

第二期肺結核

「ヴィタミン」Aノ使用量 一日六粒 五十七日間

發熱、呼吸數、脈搏數共ニ全ク變化ヲ受ケズ。

咳嗽、喀痰又其ノ量ニ增減ナシ。

盜汗ハ存在セシモ「ヴィタミン」A使用後十日以後ヨリ輕減ス。

睡眠、食慾共ニ影響ヲ受ケズ。

便通ハ下痢ヲ催シテ患者ニ不快ノ感ヲ與フ。

體重ハ毎週測量セシモ增加ヲ見ズ、却ツテ減少ヲ來ス。

第二例 [redacted] 三五歳 男

第三期肺結核及喉頭結核

「ヴィタミン」Aノ使用量 一日六粒 六十五日間

本患者ハ非常ナル神經質ナリシコトハ特異ノ點トシテ第一ニ記スモノナリ、熱ハ可成高カリシガ「ヴィタミン」Aノ使用後數日ニシテ漸次降下ヲナシテ輕熱トナリ、爾後其ノ狀態ヲ續ケタリ、脈搏數及呼吸數ニ異常ヲ認メズ。

咳嗽、喀痰ハ常ニ多量ナリシガ、少シモ輕快ヲ見ズ。

盜汗ハ二週後ニ輕減セシモ數日ニシテ又、以前ノ狀態ニ復ス。

惡寒ニ至リテハ以前ヨリ時々襲來スル事アリシモ、服用後持續的ニ毎日一二回起リシガ、十數日後ニ至リテ漸次輕快セリ、睡眠及食慾共ニ著變ナシ、便通ハ軟便ナリシモノ下痢トナリ來ル。

體重ハ(常ニ起牀ヲ恐レテ離牀セズ)計測スルヲ得ザリキ。

第三例 [redacted] 二六歳 男

第三期肺結核

「ヴィタミン」Aノ使用量 一日九粒 四十九日間

發熱、呼吸數、脈搏數共ニ變化ナシ、咳嗽及喀痰多量ニシテ影響ヲ認メズ、盜汗、惡寒ハ元來存セズ、睡眠、食慾共ニ佳良ナルコト從來ノ如シ、便通異常ナシ、體重ハ一時少シク增加セシモ、後、反ツテ減少ス。

本患者ハ「ヴィタミン」A使用前ヨリ一日五・〇乃至八・〇瓦ノ「ウェルミン」(「グリセロ」燐酸「カルシューム、ナトリューム、カゼイン」等ヲ含ム)ヲモ用ヒタリ、「ヴィタミン」A使用中止後モ「ウェルミン」ハ持續セリ。

「ヴヰタミン」A使用期間中一時、特發的ニ胸內壓痛起リテ固定安靜療法ヲ施セリ。

第四例　[redacted]　二五歳　男

第三期肺結核

「ヴヰタミン」使用量　一日六粒　四十六日間

發熱及脈搏數ハ共ニ正常ニ近クアリシ者ガ服用後ニ至リテ各多少ノ增加ヲナシ、又一日中ニテノ昇降稍〻大トナル。呼吸數ハ不變ナリ。

咳嗽、喀痰可成リ多量ナリシガ、少シモ輕快セズ。

盜汗及惡寒共ニ以前ヨリ存セズ。

便通ハ下痢ヲ起シテ不快トナル。

食慾モ此ノタメニ佳良ナラズ、睡眠モ稍〻不良ニナリシガ如シ、體重モ減少セルヲ以テ可成リ患者ニ自重ト忍耐トヲ求メシモ效果ヲ見ズシテ終ニ中止ス。

第五例　[redacted]　二九歳　男

第三期肺結核

「ヴヰタミン」A使用量　一日六粒　四十三日間

發熱、脈搏數、呼吸數不變ナリ、咳嗽。喀痰多量ナリシモ何等影響ヲ受ケズ、盜汗ニ奏效ヲ認メズ、惡寒ハ一時輕快セシモ。二十日以後ヨリ又、舊狀態ニ復ス、食慾ハ却ツテ減少セリ、睡眠モ後半ニ至リテ多少不良トナル。便通ハ下痢ヲ催シ來ル、體重モ多少ノ減少アリタリ。

第六例　[redacted]　二二歳　男

第三期肺結核及結核性膝關節炎

「ヴヰタミン」A使用量　一日六粒　十三日間

熱及脈搏數ノ一日中ニ於ケル昇降多少大トナル、呼吸數不變ナリ、咳嗽、喀痰共ニ影響ヲ受ケズ、惡寒ハ認メズ、盜汗ノ多少減少セルヲ見タリ、睡眠、食慾及體重共ニ變化ノ著シキモノナシ、使用中、偶〻膝關節ノ疼痛起リテ止マズ終ニ服用ヲ中止ス。

第七例　[redacted]　一九歳　男

第三期肺結核及濕性肋膜炎

「ヴヰタミン」A使用量　一日十粒　七日間

本例ハ、三%ノ「クロールカルシューム」二〇瓩ノ靜脈內注射ヲ一日一回施行中ノ者ナリキ。

熱ハ「ヴヰタミン」使用後數日間其ノ昇降少シク大ナリシガ間モナク舊位ニ復シタリ、脈搏數モ一時ハ稍〻增加ノ傾向ヲ示セリ、呼吸數不變、咳嗽、喀痰、盜汗共ニ存セシモ、影響ヲ受ケズ、惡寒初ヨリ存セズ、睡眠及食慾ニ異常起ラズ。

體重ヲ使用前日ト一週後ト比スルニ二百匁目ノ減少ヲ見タリ（體重ノ計測ハ常ニ同一條件ヲ保チタリ）。下痢ヲ起シテ患者連用ヲ好マザル故中止ス。

第八例 [redacted] 二八歳 男

第三期肺結核

「ヴィタミン」A使用量 一日十粒 七日間

本例モ第七例ト同樣ニ三%ノ「クロールカルシューム」注射ヲ施行中ノ者ナリキ。

發熱ノ程度ハ二三日間却ツテ上昇ヲ示セシモ後舊位ニ復ス脈搏數、呼吸數ニ變化ナシ、咳嗽、喀痰ノ多量ナルコト使用前ト差ヲ見ズ、盜汗存セシモ影響サレズ、惡寒ナシ、便通、變ル所ナシ、食慾、睡眠亦然リ、體重ハ少シク減少セリ。

其他短期間用ヒタル例ハ尙アレド大同小異ノ結果ナレバ此所ニ記サズ。

以上ノ諸例ニ於テ胸部ノ所見ハ一例ダニ良好ナル結果ヲ見ズ。

更ニ自分ハ以上ノ各例ニ就キテ患者自身ノ「ヴィタミン」Aニ對スル所感ヲ求メタルニ次ノ如シ。

第一例ニ於テハ服藥中氣分ハ可ナリシガ如シト稱ス。

次ニ更ニ進ンデ然ラバ、今後モ「ヴィタミン」Aヲ服用スルコトヲ望ムヤト問ヒシニ、患者ノ曰ク、若シ下痢ヲ起スコトナクバ用ヒテモ可ナリト。

第二例ハ其後不幸ニシテ死亡セシモ、當時ハ矢張リ下痢ヲ起セシヲ以テ投藥中止後モ要求ハセザリキ。

第三例、本患者ハ午前中毎日氣分ノ惡シキコトヲ訴ヘツヽアリシガ「ヴィタミン」Aヲ服用スルニ至リテ其ノ好マシカラザル症候ノ消失セシノ故ヲ以テ再用亦可ナラムト稱ス。

第四例、本例ニテハ「ヴィタミン」Aヲ全ク忌避シテ少シモ顧ル所アラズ。患者ハ肺結核ニハ全然「ヴィタミン」Aノ必要ナシト迄デ云フ。

第五例、本例ハ氣分ハ多少可ナルモ、其ノ必要ナルカ、否カノ點ニ至リテハ、其ノ要ナシト稱ス、更ニ追加シテ曰ク。肝油ヲ用フル時ハ、一時盜汗止ムモ「ヴィタミン」Aヲ用フルモ此ノ事ナシト、サレド肝油モ持續スル間ニ下痢起リテ全ク可ナルモノニアラザルモ一時ナリトモ奏效スル丈ケハ「ヴィタミン」Aニ勝ルト稱ス。

第六例ニテハ盜汗一時中止シテ氣分モ多少良ロシキ樣ニテ尙試ミルモ可ナルベシト云フ。

第七例ハ曰ク氣分ハ少シモ變ル所ナシ、持續使用ニ就キテ

ハ若シ下痢ヲ起サヾル時ハ試ムモ良シト。

第八例ニ於テハ一時氣分良ク、體重ハ減少セシモ七月ヨリ八月中ニカケテノコトヽテ多少ノ減少ハ免レザルベク、再用或ハ可ナラムト云フ。

前述セル如ク自分ハ自分ノ觀察ト患者ノ告白トヲ有リノ儘ニ書キタルヲ以テ結果ノ判定ニ至リテハ讀者ノ意ニ任ゼンモ自分ガ「ヴヰタミン」Aト肺結核トノ臨牀的關係ヲ概念的ニ求ムレバ「ヴヰタミン」Aガ肺結核ニ推奬スルニ足ルベキモノニアラザルコトナリ。

尙「ヴヰタミン」Aト共ニ解熱劑ヲ用ヒタルコトモアルモ、特記スベキ事ナカリキ。

質疑應答

問。人工氣胸術ハ一開業醫トシテ簡單ニ出來ルモノナリヤ、又適應症ニ就テ伺ヒ度シ。

（千葉縣、S、H、生。）

答。肺結核治療法ニ於テ人工氣胸術ハ既ニ試驗ノ域ヲ脫シテドシ〳〵行ハルベキモノトナツテ居ル。唯日本デハ餘リ廣ク行ハレテキナイノデ初メテ手ヲ出スノニ控目デアルトイフニ過ギナイ。ダカラ恐レズニ實行スレバヨイト思フ。器械ハ私ノ所デハホラニニ法ニヨル永井式ノヲ用キテ居ル日本デハ窒素ヲ得ルニ不便デアルカラ矢張空氣ヲ入レル式ノコノ種ノモノデ充分ト考ヘル。特ニ手術室ナドハ必要ガナク診察室デ結構デアル。空氣ハ消毒綿デ濾シ昇汞水ヲ通スダケデアルガコレマタ差支ナイト思フ。

五十回以内デ設備シ得ラレルカラコノ方モ至ツテ簡單デアル。

適應症ハエッセン氏ニヨツテ書イテ見ルト次ノヤウデアル。

一、確實ナル適應症。一側ノ重症他側ノ健全、患側ノ肋膜癒著ナキモノ或ハ甚ダ僅少ナルモノ。

二、許サル可キ適應症。

（イ）一側ノ重症他側健全、患側ノ癒著新シキモノ或ハ餘リ古カラザルモノ。

（ロ）一側ノ重症他側ノ病變僅少卽チ比較的健側ノ病變ガ其ノ三分ノ一ニ及バズ且ツ成ル可ク破壞ナキモノ。他側ノ病變ガ上葉ニアルモノ、方見込ガヨイ。

（ハ）一側ノ重症ニテ癒著ナク喀血止マズシテ危機ヲ藏シ他側ガ健全ナルモノ。